

ブロック名：呼吸（ブロック①）

月日	曜日	時限	授業タイトル	講義担当者		授業終了後に説明できる事項	事前学習
				氏名	所属		
10.15	火	I	気体	吉田 稔(客)	生化学	1. 理想気体と実在気体 2. 混合気体におけるドルトンの法則 3. 気液平衡や気体の溶解度	高校までの物理化学生物の範囲、 医系自然科学を十分に理解する
"	"	II	緩衝	"	"	1. 生体における緩衝系 2. 酸・塩基の強さと水素イオン濃度指数(pH) 3. 緩衝作用とHenderson-Hasselbalchの式との関連	"
"	"	III	呼吸①基本的事項	船橋 利也	細胞・器官 生理	1. 基本的な気体や大気に関する法則や原理 2. 基本的な気体や大気に関する数値 3. 肺に関する基本的な自然科学の法則	"
10.16	水	I	上気道	星野 敬吾	人体構造	1. 鼻腔の構造 2. 4種の副鼻腔の構造（鼻腔への開口部） 3. 喉頭の構造（構成する軟骨と声帯を調節する筋）	事前配布の授業プリントに目を通し、 主要なキーワードの参考書該当部位 を一読していただくこと
"	"	II	下気道・肺・胸膜腔・ 縦隔	"	"	1. 左右気管支の差異 2. 肺区域 3. 胸膜腔と縦隔の構造	"
"	"	III	呼吸器系の発生と その奇形	平田 和明	人体構造	1. 呼吸器系の発生 2. 気管支の発生 3. 肺葉の発生	発生学教科書の関連ページを一読 していただくこと
10.18	金	I	呼吸②肺の呼吸の メカニズムの基礎	船橋 利也	細胞・器官 生理	1. 肺がどのように大きくなるか 2. コンプライアンス 3. サーファクタントの機能	高校までの物理化学生物の範囲、 医系自然科学を十分に理解する
"	"	II	呼吸③肺の呼吸1	小倉 裕司	細胞・器官 生理	1. 肺気量分画 2. 努力性肺気量 3. 換気の原理	"
"	"	III	環境	吉岡 利忠(客)	生理学	1. 宇宙環境曝露における骨格筋機能 2. 微小重力環境における体液分布 3. 高地環境における呼吸循環適応	"